

中村 俊一 社長

おかげさまで当社は今年、創立65年を迎え、今まで培ってきた高い技術力を基に放送サービスの高度化に向けた製品開発やサービスを拡大してきた。18年の社長就任当初に3カ

18年にスタートした新4K・8K衛星放送は、普及のための整備は進んでいるが、まだ一般商用化の段階にまで届いていない。当社としてはお客さまに魅力ある使いやすい製品を提供し、4K・8K

が主催した「さつぽろ雪まつり8K映像伝送実験」ではこの伝送システムが使われ、札幌から8Kライブ映像を圧縮して、IPで東京、大阪、沖縄へ配信する実験を成功させ、今年も同実験に参

用しているCATV局のインターネットの高速化や、BSのパススルー送信が可能となるFTTH(光)方式への切り替えが進

も取り組んでいく。今年は特に5Gの商用サービス開始や東京五輪・パリンピックがあり、映像を中心とした大きなイベントを控えている。それらに対応した製品供給を通じて貢献していく。

デジタル人材を育成

8K放送信号 圧縮処理技術 医療分野などで活用

す「CATV事業継続に貢献」「画像処理技術をコア技術として高め

一段上の事業レイヤーを目指している。中期経営計画3年目に当たる今年

8K HEVCエンコードを検証する予定。並行運用になると考え

FTTHとHFCとの併用運用になると考え

も積極的に取り組む。CATV業界もハードよりもソフトが重要視されている。当社は今年を大きな変換期として、機器販売のみならず、保守・監視などサービスも強化。先を見据えた提案をしなが

へんのステップアップを図る年でもある。新分野にも挑戦する。

4K動画を通常の4Kテレビに配信できるシステム「ハイブリックキャスト4Kビデオ」や8K HEVCエンコーダ(開発中)の製品を提供しなが

はじめる。スポーツなどの間は既存機器のメンテナンスや、お客さまが困っている点は引き続きサポートする。

映像伝送システムのIP化が大幅に進む中、従来のHFC機器

あるサービスと付加価値向上を図る。



中村 社長

ISDB-S3変調器を使いチューナ付きテレビに4K・8Kの素

映像伝送システムに

の供給を維持しつつ、

価値向上を図る。